

令和6年度 吉備国際大学「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム
(リテラシーレベル)」自己点検・自己評価

【履修状況】

本学では、同プログラムを令和4年度より実施している。この教育プログラムの学生の履修・修得状況については、全学教養教育委員会情報教育部会において点検・分析・改善を行い、全学的な履修者数・履修率の向上を図っている。令和4年度は「数理・データサイエンス・AI 基礎」が19名と少なかったことから、プログラムの資料(フライヤー)を作成し、学科別オリエンテーション等において科目の必要性等の説明を行ったことにより、令和5年度は92名、令和6年度は110名と増加した。「数理・データサイエンス・AI 応用」に関しても、「基礎」および「応用」の両方の科目の単位修得によって、履歴書にも書ける修了証を得られることなどをPRすることで、徐々に履修者が増加している。

(履修者数)

科目	令和4年度	令和5年度	令和6年度
数理・データサイエンス・AI 基礎	19	92	110
数理・データサイエンス・AI 応用	—	15	23

【単位修得状況】

以下の表は、本プログラムを構成する「数理・データサイエンス・AI 基礎」および「数理・データサイエンス・AI 応用」の単位修得状況である。令和5年度から令和6年度にかけて履修者数が増加する一方で、単位修得をできない者の割合が増加していることが観察される(約5%→約9%)。一方、令和6年度においては、いずれの科目も約60%以上の履修者が5段階評価の4以上を修得しており、内容を十分に理解したと考えられる。

(単位修得状況)

科目	令和4年度	令和5年度	令和6年度
数理・データサイエンス・AI 基礎	17	87	100
数理・データサイエンス・AI 応用	—	15	23

【授業アンケート】

授業終了後に学生による授業アンケートを実施しており、この結果を通じて授業内容の理解度や学習内容に対する学生の意見を収集し、教育内容の改善を図っている。「数理・データサイエンス・AI 基礎」では、「授業内容を分かりやすく説明していた」および「学生の理解に合わせた授業を

していた」といった項目において、約 90%の学生が「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」と回答している。「数理・データサイエンス・AI 応用」では、Microsoft Teams のチームの「会議」機能を活用し、各回の授業終了後、学生の授業の理解度(主観的パーセンテージによる回答を求めている)の確認と感想を集約しており、受講者はおおむね理解度が 70-80%であると回答している。

【外部評価】

本学では、市役所や近隣の高等学校、教育委員会および商工会議所等、産業界の方々に協力いただき、自己点検・自己評価委員会において意見を頂いている。令和 6 年度は概ね良好な評価をいただいたが、今後も外部からの視点を踏まえた意見を教育プログラム内容・手法等へ反映させ、改善を行う予定である。

【今後の検討事項】

授業改善の一環として、TA の活用、およびカリキュラム変更による履修者の増員を目指す。また、単位取得状況に見るように、履修学生数の増加により、統計学・数学およびテクノロジーに苦手意識をもつ学生の増加が見込まれる。授業の進め方などについてさらなる工夫を検討する。